

解答プリント「中学社会・歴史的分野」

■発展プリント

5 ヨーロッパ人との出会いと全国統一

【評価の観点】㊦：思考・判断・表現 ㊧：技能 ㊨：知識・理解

解答例	解説
<p>㊧ (1) 南蛮貿易</p> <p>㊦ (2) キリスト教の布教を行うため。(14字)</p> <p>㊨ (3) ウ</p> <p>㊨ (4) キリシタン大名</p>	<p>㊧ (1) ヨーロッパ人との貿易が始まると、スペイン人・ポルトガル人は南蛮人、イギリス人・オランダ人は紅毛人とよんでいた。南蛮貿易のおもな貿易港は、長崎県の平戸、長崎、豊後府内（大分市）であった。</p> <p>(2) 宗教改革に対抗して結成されたイエズス会は、勢力拡大のために、アフリカ・アジアに積極的に進出し、布教につとめた。このキリスト教の布教活動と南蛮貿易は一体となっておこなわれたため、スペイン船・ポルトガル船に乗った宣教師が次々と来日した。</p> <p>(3) アの生糸、イの絹織物、エのガラス製品は南蛮貿易で日本にもたらされた輸入品である。このうち、生糸・絹織物は中国産のものであった。このほか、南蛮貿易での日本のおもな輸出品は、刀剣、硫黄、海産物、漆器など。おもな輸入品は、鉄砲、火薬、香辛料、金、毛織物などであった。</p> <p>(4) おもなキリシタン大名には、高山右近、小西行長、黒田孝高（黒田官兵衛）、大村純忠、大友義鎮、有馬晴信らがいる。このうち、大村・大友・有馬の3大名は、少年使節をローマ教皇のもとに派遣（天正遣欧使節）している。</p>
<p>㊦ (1) イ→エ→ウ→ア</p> <p>㊨ (2) ウ</p> <p>㊧ (3) 刀狩令</p>	<p>㊦ (1) 桶狭間の戦い当時の織田信長は尾張の一部を支配していた小さな戦国大名であったが、駿河の有力な戦国大名である今川義元を破った（イ、1560年）。この戦いの後、信長は勢力を広げ、1568年には上京し、足利義昭を室町幕府第15代将軍につかせ、実権を握った。その後信長と義昭は対立するようになり、義昭は各地の戦国大名に信長打倒をはたらきかけた。義昭と敵対するようになった信長は義昭を京都から追放し（エ、1573年）、義昭の味方をした戦国大名の一人である武田勝頼を、徳川軍とともに長篠の戦いで破った（ウ、1575年）。翌年安土城を築き、城下で楽市・楽座政策を実施して商人を招き、座や関所を廃止して商工業の発展をはかった（ア、1577年）。</p> <p>(2) 豊臣秀吉のおこなった太閤検地により、荘園領主がもっていた権利が失われ、荘園制が完全に消失した。</p> <p>(3) 刀狩令は、百姓の一揆を防止し、農業に専念させるために出された。</p>